

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「利用者1人ひとりが、ゆったりとした日々を過ごすことが出来るよう介護支援を致します」 会議の場でも理念に添った、支援がされるよう話し合い、日々の対応について振り返る機会を持っている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ケースカンファレンスや会議の際、理念を念頭に介護支援の方向性を見誤らないよう、実践に向けて、全体で取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族会や運営推進会議の中でも、繰り返し説明している。 民生委員の方の協力もあり、町内会の方々のホーム見学が実現した。時間はかかっているが少しずつ理解してもらえるよう努力している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や買い物の際、積極的に声を掛けたり、いつでも立ち寄ってもらえるよう説明しており、他階の住人との交流は日常的に行っている。</p>	○	<p>近隣との付き合いはなかなか難しくはあるが、外出時、公園などで、声をかけたり、近くの床屋を利用し、入居者の外出機会を多くするよう努めている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の掃除や総会など、出来る限り参加している。</p>	○	<p>更に、交流を深められるよう、参加の機会を増やしたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近隣者の来訪時には、介護相談についても、受けつけている旨、伝えている。</p>	○	<p>町内会の一員として、積極的に案内を出すなど、更に力を入れて取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎回スタッフ全体で、自己評価に取り組み、外部評価の結果についても、話し合い即対応している。 1人ひとりが自己評価した上で、再び会議の際にも、話し合い、支援のあり方について、見直しをしている。	
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部評価の結果やボランティアの受け入れ、活動状況等報告し、地域との関わりや理解が深まるよう情報交換し、提案があれば、即検討、対応している。	○ 会議を家族会とあわせ、日程を決めて2ヶ月に一度開催するように、話を進めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要時には連絡を取り、サービス向上に向け、講習等に参加している。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者会や資料などでも学んでいる。	○ 外部講習会の他にも、ホーム内で勉強会を開き更に知識を深める機会を設け、役立てて、活用したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	常にスタッフ間でも意識しており、入居者間、家族にも説明している。 外部講習会も受けながら、日々の中でも互いに接し方について、注意し合い常に意識している。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の説明、その後においても随時不安や疑問が無いよう説明している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会話や様子からも察知し、個人申し送り書に記録し、不満等の解消に向け、スタッフ間でも話し合い、家族へも、報告し対応に努めている。馴染みのボランティアの方と個別に話す機会を設け、会話から思いを知り、対応に反映している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	随時、来訪時や電話等で伝えている。月に一度ホーム内にて、家族会を開いており、その中でも話し合い、報告し欠席した家族にも内容をまとめ郵送している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時に声をかけ苦情等があった際には、記録し即対応、解決するよう努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の場や個別に意見を聞く機会をつくり、反映に努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に合わせ、話し合い対応している。重度な状態にある入居者のいる時には、入居者の不安のないよう、勤務を調整して対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	常々ユニット間で行き来するよう、スタッフにも伝え、日常的に馴染みの関係になるようにし、異動については配慮している。内部研修としても、他フロアへ研修に行く機会を設け、ホーム全体で関わり関係を築くよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の講習や勉強会に参加する機会を設け、レポート提出の上、会議で報告し、知識を高めるよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>更に、ホーム内での勉強会を開きケアの質の向上に努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近くのグループホームとの交流がある。</p>	<p>○</p> <p>更に、関係を深めるよう相互訪問の機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常や会議の場でも、ストレスについて話し合い、それぞれの悩みを共有し、軽減に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>他ホームのスタッフとも交流がもてる、機会を多くしたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日々把握し、声かけしている。</p>	<p>○</p> <p>他のユニットや他のホームを知ることで、向上心を高め、日々の支援に反映するよう、機会を設けたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所後も本人の思いや不安などの把握に努めるよう、日々会話や様子から察知し、傾聴し、受け止め、スタッフ全体で支援にあたっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>中立の立場又、利用者本人の思いも伝えながら、よく話し合うことで、信頼関係を築くよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状についても、報告、相談し、家族の協力も得ながら、対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	スタッフ間、家族とも相談しながら、本人に合わせ、安心して、生活ができるよう何度も検討しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	作業やレクリエーションなどそれぞれに合わせた活動を一緒に行い、一緒に楽しむことで、常に学び、関係づくりに反映している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居の際にも説明し、家族参加の行事も設け、共に支え合う関係を築いている。毎月の便りにも、行事の予告をし、参加を呼びかけている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者からの何らかの相談、訴えがあった時には、家族関係に配慮し報告、相談し、より良い関係になるよう支援している。認知症の理解を深め、関わりを持ってもらえるように、話し合う機会を設けている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで使用していた、家具等を持って来てもらうようにし、家族にも自宅への外出など協力してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクリエーションや作業など、他者とコミュニケーションが持てるよう仲介し、入居者同士が友好的に関われるよう努めている。互いの居室を訪ね合ったり、個々の対人関係を理解しながら、他入居者と関わりが持てるよう、機会をつくり対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後でも、入院先や自宅を訪問し、交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の性格を見極め、自己主張のある方も、ない方も日々の会話やその時の様子から察知し、配慮し、対応している。日頃よりスタッフ間でも話し合い、希望や意向について、本人の求めている状況に近づくよう、検討、対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に家族からも情報を収集し、入所後も本人との会話からも把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日の体調にあわせ、出来る事はしてもらい、出来そうなことについても、さりげなく誘い、共に行っている。個人申し送り書を活用し、作業参加の声かけ方法についても、スタッフ間で情報を共有し、工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が望むことを聞きとったり、話し合ったり、しながら支援に努めている。会議や日々の送りの中でも、利用者本位の視点の基、意見を出し合い介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況の変化や精神面での支援に対し、随時介護計画を見直し、現状に合わせて作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の送りの中でも話し合い、個人申し送り書を活用し細かな気づきについても見逃さないよう、スタッフ間で情報を共有し、支援に反映している。記録の書き方や内容についても状況がわかるよう、工夫し実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホーム単独であるため難しいが、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて対応している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	該当者なし。	○	必要があれば対応していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	該当者なし。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医師による定期受診と共に、医療連携体制機関の訪問看護を週1回受け、必要時には往診してもらい、健康管理に努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期受診以外でも相談に応じてくれて、指示やアドバイスをもたらしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度、同じ看護師による訪問看護を依頼し又同じ診療所の医師の往診を受け、連携を持ち、健康管理での支援に努めている。入居者とも馴染みの関係となるよう、関わりを持ってもらい、報告、相談し、医療面での不安がないよう支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向け、ホームでの対応についても、相談し本人にとって、最適な状態で早期退院に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階から家族と、医師との話し合いの機会を設けている。	○	更に話し合いの機会を設け家族、医師、スタッフ等全員で方針の共有に努める。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者がより良く暮らせる為に、出来ることを見極め、現状の変化に対応した、チームケアが行えるよう努めている。スタッフとの話し合いと共に家族に対して、都度現状を伝え、家族会でも医師より終末期について学ぶ機会を設けるなどし、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入所前の生活状況について十分聞きとり、ダメージを最小限に防ぐよう努めている。入居者にも十分説明し、使いなれた家具の使用や精神面での対応についても情報交換し、入居後もまめに連絡を取りながら、ダメージを防いでいる。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に利用者本位の目線に立ち、自分がそのような立場になったらどのように対応して欲しいかを念頭に、日々対応している。日常の声かけや記録の書き方についてもスタッフ間で話し、注意し合っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉やジェスチャーで分かりやすい、話かけを見極め本人の思いを理解できるよう努めながら、本人の意向に沿い、あやふやとならないよう支援をしている。常に自己決定や意思を伝えられるような、場面づくり、又解らなく萎縮することのないよう、表情を見ながら対応している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者第一、業務を二の次と考え、焦らずゆっくりと対応し、会話の中から希望があった場合はそれぞれに合わせた支援が出来るよう努めている。</p>	○	その時々を思いを聞き逃さず、感じ取る努力をし、それぞれに合わせた対応に努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族と行く方もあり、ホームでは2ヶ月に1度馴染みの訪問美容を利用し、希望に沿って、対応している。日常的にも服を選んだり、お化粧品など支援している。外出時以外でも、お化粧品する機会を設けている。又自らお化粧品やおしゃれしている際には、見逃さず声をかけ、身だしなみに対する意識を失わないよう支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>それぞれの入居者にあつた作業を提供し、食材下準備、盛り付け、配膳、下膳、米とぎ等一緒に行えるよう支援している。又自ら手伝いにこられる事も多い。その時々を気分を考え、無理強ひせず、手伝いに、繋がる働きかけ、声かけの工夫をしており、会議でもそれぞれ、場面にあつた声かけ方法についても話し合っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みに合わせ対応出来るようにしている。食べたいもの、飲みたいものがあつたら、一緒に買いに行くなどし、希望に合わせて対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表、水分表により把握し、自立、声かけ、見守り介助し、自立支援のもと、汚染軽減するよう対応している。それぞれ身体状況の変化に合わせて、トイレでの排泄を基本に支援している。会議や日々の送りの中でも、状況について意見を出し合い対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	状況を見ながら午前・午後と無理強いせず、それぞれに合わせて対応している。拒否がある場合日にちをずらしたりしている。	○	近くの銭湯へ、個別で行くなど、個々に合った出来る範囲で行動域を広げるような対応についても検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その時々状況を見て、休めるよう対応している。足浴やホットミルクなど提供し、気持ちよく休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	やりたい事を聞き、作業やレクリエーションの提供し、外出の機会も多く作り、気分転換を図れるよう支援している。ケアプランの中でもそれぞれに合った、役割について考え、日々の過ごし方に反映している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々にあわせ家族とも話し合い、金銭管理をしている。欲しいものがあるときには、一緒に買い物へ行って来る。外出先での支払など対応してもらう場面を大切にできるよう関わり、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気候の良い日は出来るだけ散歩やドライブ等外出支援している。ボランティアの方の力も借りスタッフ同行の上外出の機会を作っている。天気の良い日は時間に合わせて声をかけ、歩行困難な方も外で陽なたぼっこするなど対応している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を計画し、家族の協力も得て、季節ごとに支援している。個別、家族による外出も多い。新年会、お花見、敬老会を3大行事として、家族会の支援もあり、ホテルなどで食事会を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時にはいつでも電話が出来るよう伝え、支援している。家族にも手紙やハガキを送ったり、返事を書くなど、やり取りの支援に努めている。こられない家族にも、電話を入れてもらうなど、協力してもらい、不安の軽減に努めている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者も多く、和やかな雰囲気になるよう支援に努め、関わっている。家族にも他の入居者と馴染みとなっており、他者とも関わりを持ってもらい、入居者同士の関係作りにも協力してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを正しく認識しており、勉強会や会議の中でも話し合っている。身体拘束は行っていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関は施錠していない、1階の玄関は他フロアの住人も使用するため、オートロックになっているが、3階、4階は自由に出入りが出来るようになっている。居室の鍵については、希望される方もおり、対応しているが本人にも説明し、了解を得て安否確認の為、開鍵させてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各自スタッフが意識し、入居者数と所在を常に確認し、ストレスを与えないよう配慮しながら、安全確認をしている。自室経過時にもさりげなく、訪室し会話や様子から心身状況の把握に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	物品管理が出来ない入居者に関しては、預かるものもあるが、それぞれの趣味や生活習慣に合わせ、自室で付き添い、見守り対応している。又物品を確認し危険を防いでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	スタッフ全員が、救命講習を受けており、知識は習得している。個人の状態に合わせたケアプランを立て、事故防止に努めている。会議の中でも、その時の入居者の身体状況について、話し合い対処法について学び、実践に生かしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを用意したあり、目を通して常に緊急時に備えている。緊急用基本情報も作成してある。訓練に関しては、救命講習で習得した事を都度、会議で確認し周知している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議で説明し理解を得るよう努めている。	○	更に町内会や地域の住民に理解が得られ協力体制が取れるよう働きかけたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族会、ケアプラン作成、説明時にきちんと説明している。生活の質を変えないよう優先している。ホームでの対応の限界についても、話し合い、起こり得るリスクの対応策や起きてしまった時の対応についても、よく話し合う機会をつくっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状態から体調の変化を気にかけている。毎朝全員のバイタル測定(少しの異変時にも)し、引継ぎで必ず他職員にも情報を共有し、次につなげ早期対応に気を配っている。個人の申し送り書を活用し、前兆や異変の把握に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は、入居者が医師の指示どおりに薬を飲み終えるよう支援し、症状の変化も確認している。薬は朝、昼、夜と色分けしたペンで日付を記入し、一人ひとりの1ヶ月分ずつを決まった場所で保管している。処方された薬の変化や内容について随時確認し、症状の変化についても話し合い、受診時等報告している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	朝にはヨーグルト、夕食にはミルク、他の時間には飲水を促して、経口からの予防と腹部マッサージを行ない、その効果の説明と実施をしてもらっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、うがい、舌苔・義歯の洗浄は声かけし、促したり、介助して清潔を保つよう支援している。拒否の強い入居者には受け入れてもらいやすい状況や声かけの工夫をして対応している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養を考え調理をしている。水分が進まない方達のためには、意識して水分量が確保できるメニューを提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルができています。手洗いを励行し、玄関には消毒液置いている。入居者、職員ともに、インフルエンザの予防接種を受けている。一介助につき、一手洗いを徹底し、携帯の消毒液を持ち歩いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	生活共同購入により、1週間をめぐりに使い切れる食材を注文管理している。冷蔵庫内の清掃、調理器具等アルコール消毒し、布巾は煮沸での衛生管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に鉢植えや生花、手芸品等を飾り、明るい雰囲気になっており、出入りしやすい。ホーム玄関は夜間以外はいつも開放している。	○	マンション前の花壇の手入れがされておらず、管理会社に伝えているが、ホームで出来るかぎり、手入れ対応していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	限られたスペースのため、音は伝わることもある。光は必要個所に合わせたルックスにしている。季節に合わせた飾り付けを適便に行ない、四季を感じていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	限られたスペースの中で、玄関、廊下にソファを置いたり、台所に椅子を置いたり、気分に合わせて場所作りの確保に努めている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気持ちが安らぐよう、馴れ染みの物を持ってきてくださるよう、家族へ伝えている。ご本人・家族の気持ちを確認し、身体状況や生活動線に合わせ配置し、心地よく過ごせるよう対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、窓を開け換気を行なっている。臭いは気をつけており、消臭スプレー等でも不快を回避している。これからの季節は自室に洗濯物を干し、湿度を保つようにする。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりや、滑り止めを設置。一般のマンションのため段差があり、スタッフは常に危険意識を持ちケアに入っている。入居者の動き、所在に注意し、事故に繋がらぬよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ない事にこだわらず、出来る事へ目を向け、各々の力に合わせた作業やレクリエーションを促している。相談する場面を作り、入居者の意向を聞くなど、関わる中でも意識している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダを活用し、家庭菜園や植木等を置き入居者が水をやり、手入れが出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない <p>一対一の傾聴の時間を作ったり本人の意向や思いをくめるよう努めている。家族への思いはスタッフでは埋められない面もあるが、皆で日々考え楽しく穏やかに暮らせるよう支援に努めている。</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ●①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない <p>業務にとらわれず、利用者第一に考え、一緒に過ごせる時間をもてるようにしている。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>利用者一人ひとりのペースを大切に、希望があった場合又は本人の体調などにも配慮し支援している。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>スタッフは言葉かけ、対応の一つ一つを大切に考え、少しでも笑顔が多く生き生きと、過ごせるよう努力している。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>外出の意欲が低下して、室内でのんびりすることを好む傾向にあるが、希望に合わせて対応したり、誘うことで外出の機会を設けたり、日常的に支援している。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>毎日身体観察を行ない異変がないか、早期発見に努め協力医療機関とも、連携を取り対応している。</p>
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ●②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>不安などの訴えがあった時には柔軟に対応し、その時々に合わせて、安心できるよう支援している。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ●②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない <p>電話や来所時に声をかけ、信頼関係を築くよう努めている。家族会が月に一度あり、家族同士での情報交換も進めている。</p>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ●②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない <p>週のうち3日、定期的に馴染みのボランティアの来訪がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ●②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 	時間はかかっているが、少しずつ増えている。又増えるよう努力している。
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ●①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 	ストレスも多くあるが入居者の前には出さず、スタッフ間でよい関係を築き、それぞれ努力して頑張っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ●②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 	満足してもらえるよう日々努力している。
	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ●②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない 	本人と家族と思いの違いもあるが、説明しながら理解してもらえるよう対応している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 コミュニケーションに重点を置き、本人の思いと、ゆったりとした生活が送れるよう支援している。